

和紙

歴史

加賀では、平安時代から和紙が漉[す]かれていたと言われているが、盛んになったのは江戸時代以降のことである。

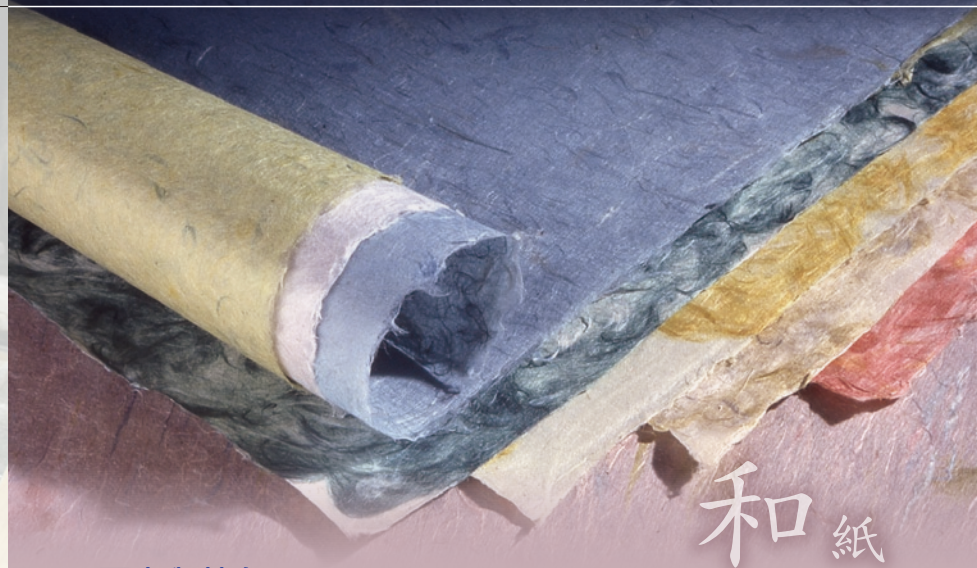
文禄元年(1592)以来、金沢市の山間地に位置する二俣[ふたまた]は献上紙漉き場として加賀藩の庇護[ひご]を受け、加賀奉書[ほうしょ]など高級な公用紙が漉かれていた。また、天明4年(1784)には、敦賀から製法を学び、川北町で雁皮[がんび]紙が漉き始められ、西陣織の金糸、銀糸の芯紙として使用された。現在は、金箔の箔打ち紙に使用されている。さらに、輪島市仁行[にぎょう]でも、古くから付近のコウゾを使って紙漉きが行われている。

特色

加賀二俣和紙は、すべて国産の原料を使用しており、各漉き場では自家採取と国内の原料で生産している。現在は、箔打ち紙や、工芸、表具用の紙を漉いている。

また、川北町の和紙は加賀雁皮紙と呼ばれており、雁皮紙は別名斐紙[ひし](美しい紙)と呼ばれ、和紙の王様と呼ばれている。ただ、原料のガンピが栽培困難で、自生したものを採集して生産するだけとなっている。

輪島市の和紙は能登仁行和紙と言われ、ササやスギ皮、海藻などを漉き込んだ能登唯一の創作和紙である。



和紙

歴史與特色

據説加賀地區從平安時代開始用紙漿製造和紙，江戸時代之後非常盛行。

自文禄元年(1592)後，地處金澤市山區的二俣地區被作為進貢紙的製造產地，受到了加賀藩的庇護，生產加賀奉書等高級公用紙。天明4年(1784)，川北町學習敦賀地區的製造法，開始製造雁皮紙，並被用作西陣織中金線、銀線的芯紙。如今則用於金箔的打箔紙。此外，在輪島市仁行地區，從古代就開始利用周邊的楮樹從事造紙業。

現在，加賀二俣的和紙被用於打箔紙、工藝品以及裝裱用紙。輪島市的和紙被稱作能登仁行和紙，它是用細竹和杉樹皮、海藻等製作而成，是能登唯一的創作和紙。

情報 資訊

主な生産地(主要産地)	金沢市(金澤市)・川北町(川北町)・輪島市(輪島市)
主な製品名(主要産品名)	奉書、箔打ち紙、和装小物、壁紙(奉書、打箔紙、日式服裝小飾品、壁紙)
主な生産者(主要生産者)	石川和紙の会(石川和紙會) 〒920-1102 金沢市二俣町18(金澤市二俣町イ8) TEL (076)236-1062